

平成三十年五月一日発行（毎月一回一日）
書象 第六十六卷 第五号 通巻七五〇号

書 系



私たちが「日本の書道文化の
ゴネス、無形文化遺産登録を
応援しています。」



日本書道芸術協会

2018-
5

卷頭言

読売書法展・日展出品に寄せて

理事長代行 内藤望山

書象展の作品制作を終えて一段落したところですが、続いて読売書法展・日展に挑んでみませんか。この二つの公募展はややランクは高くなりますが、自身を高める学習の場として多くの会員に積極的に参加してほしいと思います。展覧会は上手になってから出品するのではなく、出品することによって上手になるのです。先輩の作品を見て技術の高さを知り、他人の作品批評を聞いて納得したりして見聞が広められます。そして形式と内容に慣れて鍛度を重ね、内容を高めていくことは他にない楽しみです。また展覧会に出品することは自身を鞭打つための絶好の機会を有することであり、充実した活動が得られます。書象会では本部役員が添削会を通して丁寧な指導や疑問の解決に当たっています。書象会の存在を高めるためにも是非会員の皆様のご参加を期待するところです。

◇ 読売書法展に臨書作品を

数年前から読売書法展では臨書作品の出品が認められています。これは学書の絶好の場であり、初心者には是非参加してほしいものです。比較的作品化しやすい古典を選んで取り組むとよいでしょう。何十枚も書き込む訳ですから形体把握は勿論全体構想や変化、統一はどうあるべきかいろいろ考え、体験して多くの収穫を得ることだと思います。

◇ 日展制作も同時に

読売書法展の制作に加え、日展作品も同時に進行することを勧めます。一つの作品制作はマンネリ化することが多い。そこで読売書法展と日展と同時に二、三點複数制作を行うと、相乗効果も加わり新たな表現や構想が生まれます。日展は本年度最後の公募展です。例年誰もがその年の最高の作品内容を目指し、最大限の努力を重ねます。この日展を目指す人は長期の自己練成により、間違いなく造形感覚や表現技術が磨かれます。本年度最高の作品を制作してほしいと願っています。

◇ 本格の輝き—第35回読売書法展記念事業

「読める書への挑戦」に上條信山先生遺作出陳

標記記念事業に読売書法会創立総務の先生方による調和体の作品が展覧されることになりました。上條信山先生は西郷南洲詩漢字力タカラ作品と伊那弥生丘高等学校旧校歌々碑の漢字ひらがな作品の二点が出陳される予定です。



上條信山先生書 西郷南洲詩



松下石泉を飲む

5月20日必着。入選作のみ発表します。出品券を貼付

・文字の中心や大小に留意する。
上：最終画のびやかに。

徳：一・二画目の払いの角度に注意する。

因：背勢に構えるが、空間は狭くしない。

因

徳

上

戯

戯：字形を縱長にし、旁を伸びやかに。

塔：偏と旁の位置を意識しバランスよく。

塔

發：文字の中心に注意。

發

上徳。因戯（成）塔。發

出品券を貼付
5月20日必着

・中心線の位置を意識する。

冥…下部の横画を最大幅にしてバランスをとる。

冥

符…冠の点画の方向と交わり方に気をつける。

符

仮名規定【仮規】（師範・準師範・段位）

上條信山先生書

一字一字を正確に練習した後、連綿の練習を重ねる。

行頭、行末の位置を意識する。

落款まで含めた紙面構成である点に注意。

「頭か（可）き（支）」

「こと（登）」

「か（可）ね（年）」

「うま」

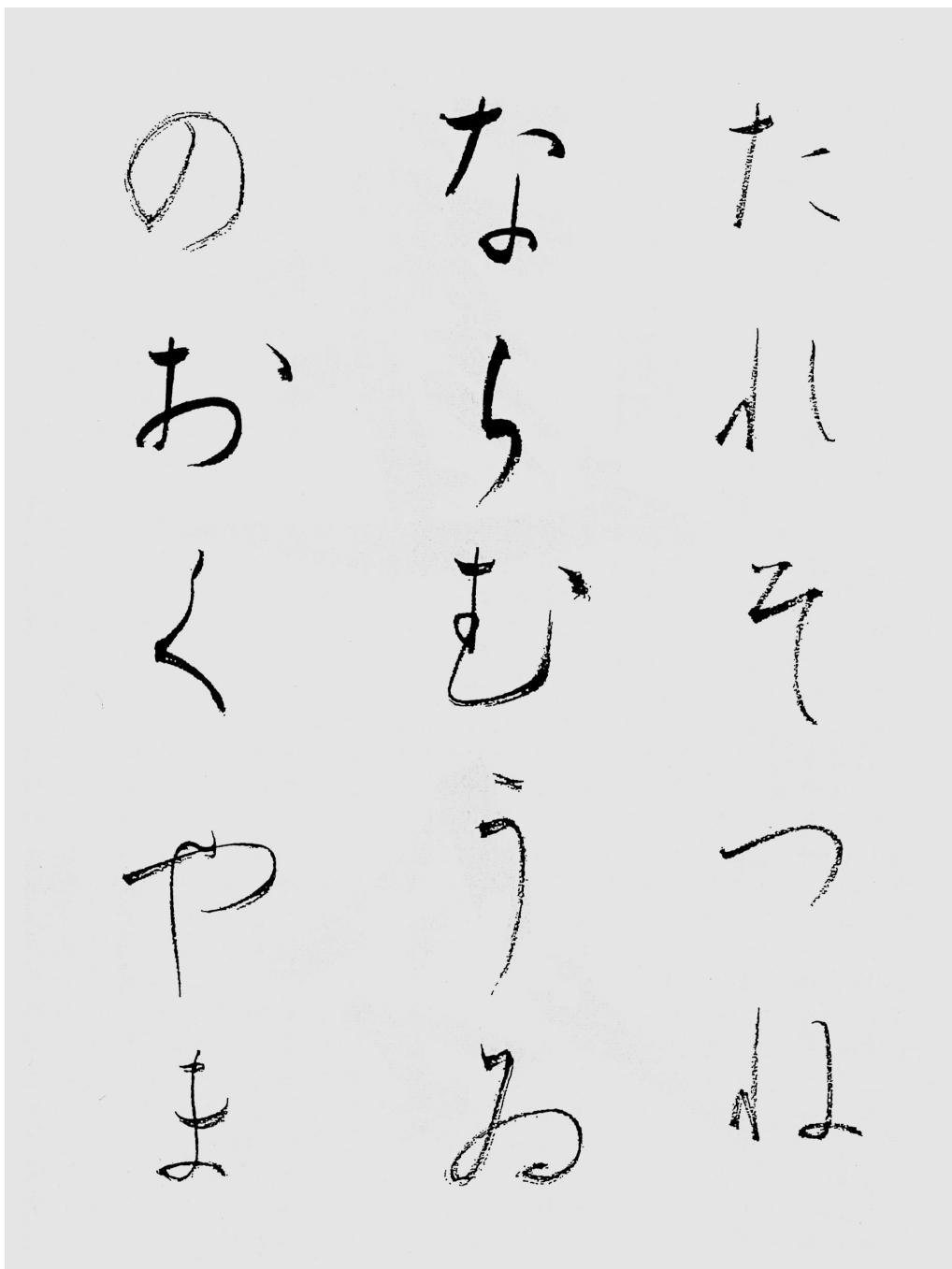
「か（可）ね（年）」

父母が（可）頭か（可）き（支）なでさくあれていひしこと（登）ば（者）ぞ（所）
わす（春）れか（可）ね（年）つる
(万葉集)

5月20日必着
出品券を貼付

仮名規定【仮規】（級位）

上條信山先生書



・起筆は逆から入り、
大きく運筆する。



・最後の点は遠くに離
す。



・文字の形をしっかりと
把握するためには、
筆の流れをくり返し
練習して腕に記憶さ
せるとよい。
「ね」「れ」は運筆
に注意する。

研究【研究】 「張猛龍碑」 臨書

積文 金を沂道に分かち、錦を（鄒方に）裂く。



虎井暁鐘先生書



杉山暁雲先生書



虎井暁鐘先生書



杉山暁雲先生書

今月のポイント 逆筆を強く当てる。文字の構造の特徴をつかみたい。
※どちらか一体を出品してください。

5月20日必着

出品券を貼付

入選作のみ発表します



両聲涼しく硯に入る

- ・「雨」「涼」「入」は扁平に。
- ・「聲」は縦長で伸びやかに。

- ・「硯」は長方形に、最終画は重くならないように。

条幅隨意【条隨】

中村巍山先生書

入選作のみ発表します

出品券を貼付

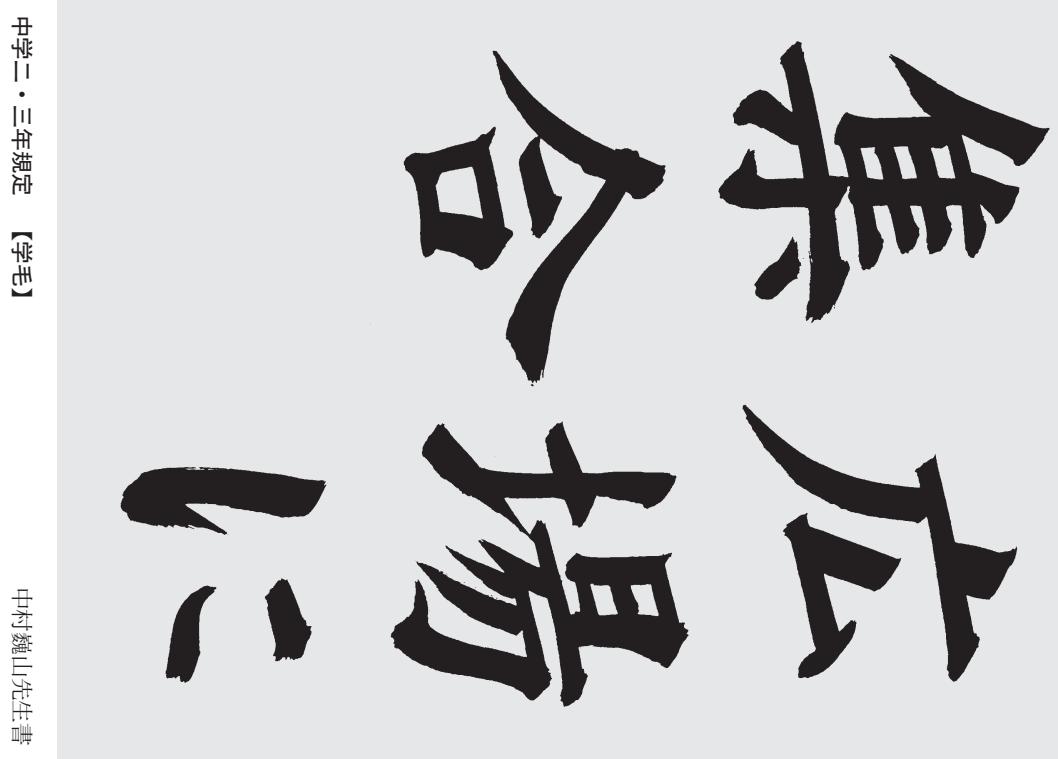


心を傷いたましむ江上の客、是れ故郷の人にあらず
(唐詩選 慮僕詩南樓望、二月号条幅隨意の後半)

- ・漢字を極端に大きくしない。
- ・潤滑の工夫を忘れずに。
- ・「故郷」を大胆な運筆で。
- ・「傷ましむ」「故郷」はP14参照。

中學一年規定
[學毛]

烟中高山先生書

中學二・三年規定
[學毛]

中村龜山先生書

正直而誠

小学五年規定【學毛】

石丸曉風先生書

時五歲

小学六年規定【學毛】

二瓶曉風先生書

三才

小学三年規定【学毛】

吉川臨泉先生書

生力

小学四年規定【学毛】

山口啓山先生書

小学一年規定 【学毛】

渡辺華雪先生書

學毛

小学二年規定 【学毛】

柳澤玄嶽先生書

學毛

硬筆規定

一般規定【二硬】(師範・準師範・段位)

上條信山先生書

小・中学生随意課題【学隨】

左の字句を半紙に書いてください。

表現自由。入選作のみ発表します。
出品券を貼付して下さい。

人々が賢明かい心も、なまらへて
もうすこゝへゆく腰を低くして

他人へへりまほうとまくる。

一般規定【二硬】(級位)

藤岡月華先生書

千曲川へやよふ波の岸ちかき宿
にのぼりつゝ瀧り酒にござり飲み
て草枕へばへなぐせむ

学生部規定

松下飲石泉
賢明ほら腰低
傷ましむ故郷

・硬筆一般規定(師範・準師範・段位)

・条幅随意規定「傷ましむ」「故郷」は左図参照。

手本解説

・基本 「松下飲石泉」は左図参照。

小 一・二年学	小
中 三・四年学	行
中 学	街 角
小 五・六年学	事



中学二・三年



中学一年

「広」の「ム」は中心より右に寄せる。
「場」の三画目は右上に払う。旁の左払
いの角度、長さに注意。「に」は左
意識する。「集」の十一、一二画目は許容
される書き方。「合」は払いを最大幅に
する。書き方、「合」は払いを最大幅に
する。

「南」の左右の縦画は内側に向ける。「十」
の縦画は横画を二等分する。「字」は上
下の組合せ方が重要。五画目はややふく
らむように書く。「星」は横画の長さ、
角度、間隔を意識する。

木下君のパスを受け、守備の足
元に飛び込む。忘れられない初
トライになつた。

中学規定【学硬】

杉山暁雲先生書

五月の連休が終わると、草木の成長が増して、初夏の季節となる。

名前
竹内藍山先生書
支部 年 級段

小学三・四年規定【学硬】

カワセミは、川の番人と言われ、水のきれいな所に住んでいます。

名前
閑香風先生書
支部 年 級段

小学一・二年規定【学硬】

イ	に	さ
キ	ぎ	あ
ン	り	、
グ	を	お
。	も	い
なまえ		
支部 年		
きゅう	だん	
閑 香 風 先 生 書		

*出品券を貼付して下さい。

一般(師範・準師範・段位)・一般(級位)・中学生は鉛筆使用のこと(中学生は鉛筆使用のこと)。小学生は鉛筆使用すること。作品の大ささ→たて18cmよこ7cm 小一・二課題→2.1cm巾のマス目。紙を使用する。小三・四・五・六課題→2.1cm巾の罫線を引く。



小学二年



小学四年



小学六年

「す」の一画目は長く、二画目は中心より右から書き始める。「み」は二画目、斜めの線の長さ、角度に注意。「れ」の二画目後半は折れの後、真下に書き進む。

「生」は左払いの角度に注意し、縦画は横画を二等分する。「き」は三画目の横画を回り長く。「る」は横広にする。「力」は折れる。結びは中下方に向かって短く。左下に書き進む。

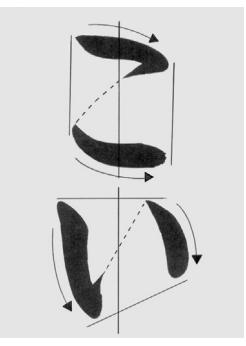
「晴」は長く、横画は平行にする。



小学五年

「花」は上下的組み合わせ方に気をつけ、「ま」は中心から書く。「つ」は右上に膨らむように書く。「り」は縦長を意識する。

「正」は横画の組み合いで注意する。「直」は間隔とし、縦画は垂直に並ぶ。最後は止で筆を整える。「心」は右上がりに画目結ぶ。横画は平行を意識する。



小学一年



小学三年



小学五年

古典研究シリーズ ④19 【古典】

書き方

雁塔聖教序 がんとうしょうきょうじょ

唐六五三年

褚遂良 (五九六～六五八年)

今月のテーマ

写実的臨書

細字 (十五字以上)

- ①文字数を間違えないで出品して下さい。

- ②続き文字でなくとも構いません。

- ③落款を入れて下さい。

- ④作品の表左下に、支部名と氏名又は号を鉛筆で記入して下さい。

古典研究の出品券を貼付して下さい。

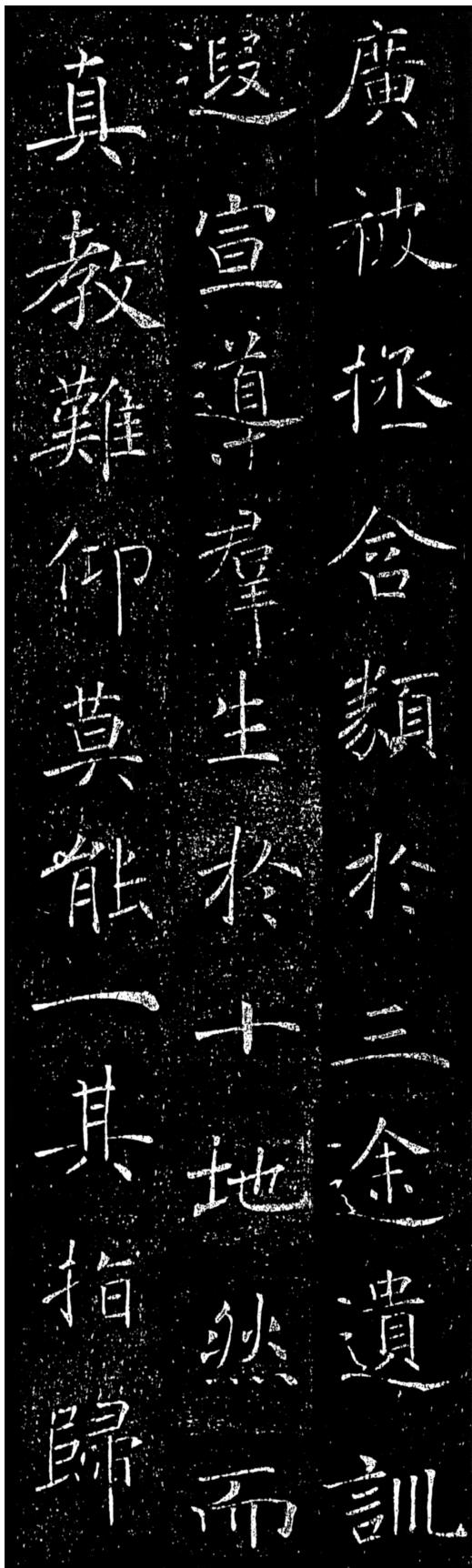
(編集部)

上條信山先生 臨書例と技法解説

無形譜
寒暑以
化物是
以窺天

「無」「形」の点が実際に自由自在に変化している。大小あるいは方向などを工夫する。

文字の形は、扁平で幅が広い。行意ある点画が多いので、リズミカルに運筆するよう心がけること。



〔釋文〕廣被。拯含類於三途。遺訓。遐宣。導羣生於十地。然而真教難仰。莫能一其指歸。

—信山先生の自伝—

「硯上の塵」を読む63

一九八六年（昭和六十一年）八月、張裕釗宮島大八師生紀念碑の建立、除幕式も無事終了。その後も上條先生は精力的に書活動を続けられます。翌年四月には「日中蘭亭書会」のために中国を訪れ、六月には記念切手・奥の細道シリーズに三枚を揮毫。一九八九年四月には東急日本橋店での「書業六十年記念上條信山展」を、十月には信濃教育界主催の第一回「信山書展」を開催します。

上條信山従事書法六十周年展覽

一九九〇年（平成二年）八月二十日から二十六日にかけて、北京において念願の個展を開催することができた。これは前年の四月に日本橋東急百貨店特設会場において、私の書道生活六十周年を記念して開催された展覽会を、本来ならばそのまま六月に北京において開催すべきところが、天安門事件の影響で、一年ぶりに実現のはこびとなつたものである。会場は長安路に面した最新建築である中国工芸美術展覽館。展覽会名は日本では「書業六十周年記念上條信山展」であったが、これが「上條信山先生従事書法芸術六十周年展覽」と中国式に改められていた。この個展は新作展というのではなく、私のこれまでの書道生活において節目となる作品を可能な限り集め、私の六十年にわたる書道に対する取り組みが一望されるものである。

前言（序文）は啓功先生、題字は中国書法家協会常任副主席邵宇先生のお手を煩わせた。会場入口に大パネルが立てられ、前言が張書範

氏の手によって、一文字十センチ位の大字で書き上げられている。張書範氏は北京において張廉卿書派活動をおしそすめている中堅書家である。会場は広々として照明が明るく、服務員の教育がいきとどいており、会場効果も満足いくものであった。関係方面の方々の御協力によって、立派な展覽会を実現していただいた。わけても張源先生には、難しい税関面の交渉までたいへん御苦労をおかけしたことをお聞きしている。今は感謝の気持ちでいっぱいである。

この展覽会の期間中、いまひとつ大きな収穫があった。それは宮島先生が張廉卿と同居し、その最後を見送ったというゆかりの故居を、西安城裏においてほぼ見定めることができたことである。

光緒二十年（一八九四）

一月十四日（新暦二月十九



会場風景（中国美術展覽館）

日）、張廉卿は家族、それに宮島先生に見守られて、静かに息をひきとった。幾千人といわれる門人の中で、師の死に水をとったのは、宮島先生ただ一人であったという。当代きっての学者張廉卿としては、あまりにも寂しい最期であった。張廉卿はその後、終南山のふもとにある宋代の大儒張載の墓地の傍に葬られたということである。

第80回 謙慎書道会展

第一会場 東京都美術館

会期 三月十七日（土）～二十三日（金）

第二会場 池袋サンシャインシティ
ワールドインポートマート

会期 三月十六日（金）～二十二日（木）

副会長 展覧会顧問 審査顧問 特別賞選考委員

田中節山



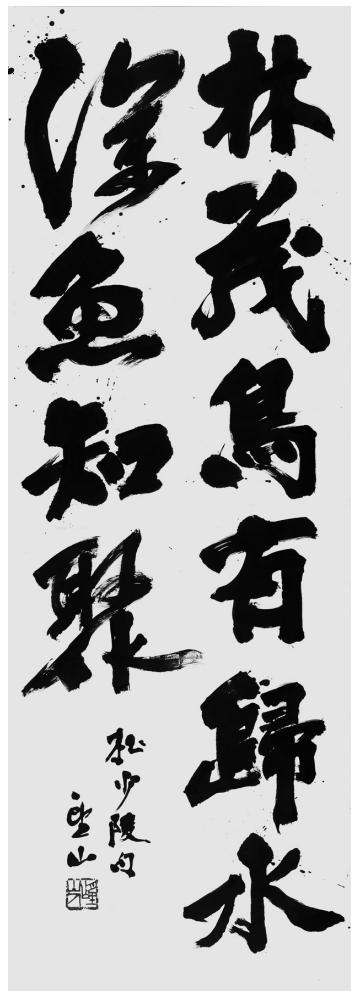
副理事長 展覧会総括 審査副主任 審査進行 特別賞選考委員

市澤静山



常任理事 展覽會總務 本年度審查員 特別賞選考委員

內藤望山



常任理事 本年度審查員

二瓶嶽風



常任理事 本年度審查員

杉山曉雲



常任理事 本年度審查員

常任理事 本年度審查員

石丸 晓風

雨中江總桃千對下外
搖柳一萬條借問春光誰
管絹一雙胡蝶逐溪橋

曉風

常任理事 本年度審查員

久保 妍山

渭北東流去何時到雍州憑添兩
行波穿向故園流經艸登高丘
無人送酒來風拂衣風葉
舊陪戰馬聞

於開元二年秋歲暮日
於開元二年秋歲暮日

常任理事 本年度審查員

竹内 藍山

宜陽城下草萋萋澱水東流
復向西流對無人犬吠自驚
春山一聲鳥空啼

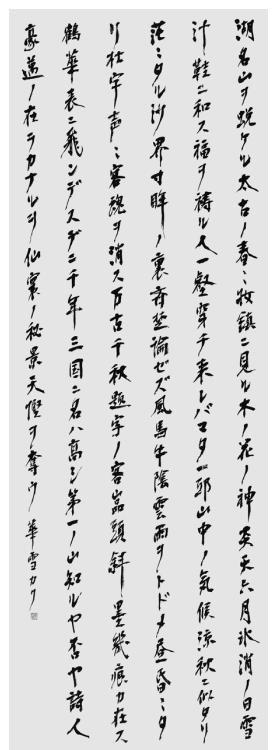
藍山書

常任理事 本年度審查員

末永 晓華

西窗夜伴百花香微花珠簾香但長吟
抱雲和絃見月微：露色陞照陽日草
原頭望遠師：黃河日夜流無盡晴秋天
賸豎行人絕首東來知是誰

許仲舉



第八十回謙慎書道会展入賞者発表

◇春興賞	小山春聲	武原幽節	武原幽節	◇春興賞
來司信博	洪江皎雲	中內真意	中內真意	鈴木草影
◇特選謙慎賞	新井雄峰	緒方愛節	新井雄峰	成瀨惠苑
金坂心快	小林比出代	佐藤梓虹	金坂心快	北村惠苑
野口虹汀	原口華煌	牧野蘭庭	野口虹汀	北村惠苑
吉田麗楓	吉田麗楓	伊藤秀庭	吉田麗楓	北村惠苑
池口聖嶽	石井薺峰	宇野惠佳	池口聖嶽	北村惠苑
石原楚峰	板谷靜思	伊藤惠佳	石原楚峰	北村惠苑
井上江靜	岩出靜思	壺裕暎光	井上江靜	北村惠苑
浦山蒼樹	榎本研象	榎本研象	浦山蒼樹	北村惠苑
小田切靜唱	上條櫻本	窓苑櫻本	小田切靜唱	上條櫻本

草薙	桑島	秀雪	影宵
齋藤	盈月	高橋	早乙女墨光
高橋	淡愁	立花	立花
高橋	齋藤	永田	壯山
高橋	齋藤	濱野	智翠
高橋	麗湖	原田	清遠
高橋	芳葉	前田	晶山
高橋	彩節	柳田	珠靜
高橋	嶠山	山中	志華
高橋	小島	門脇	加賀美節真
高橋	華凌	矢作	華杏
高橋	久保田珠悠	麗川	里節
池谷	祥風	麗川	景華
碧峰	碧峰	麗川	秋葉
上田	石塚	松岡	淺井
採花	心燈	坂井	角崎
鵜浦	伊藤	坂井	吉野
湖山	水玉	泰帛	芳節
		蒼峯	桃彩
		馨秀	鐘洞
			壺桜
			早川
			平野
			宮坂
			雅節
			眞靜
			周藤
			田口
			齊藤
			祥仙
			近藤
			静志
			吳碩

宮枝	松島	馬場	續橋	鈴木	小森	片岡	大村	荒木	山口	務台	松村	藤井	野口	中田	富田	竹本	高橋	鈴木	児玉	神谷	小川	衛藤
華凰	美月	采葉	華穂	杏静	大工	珠松	泰咲	京桜	智爽	泰煌	恭月	靜素	節風	皓花	童柳	谿山	春仙	蒼心	静章	泰寿	玄虛	琴光
宮澤	丸山	藤原	土井	伊達	宍戸	栗原由希子	小笠原ひより	稲葉	横井	茂木	間宮	二木	長谷川清風	中村	豊田	田中	高橋	関口	渢谷	小林	織戸	大澤
晃静	欽造	翠邑	雲峯	知節	桂春			京春	萌玉	麗節	廣山	春桃	尚月	穗暉	白羊	越山	智燁	春意	木内	理映	晨玉	輝節
村山	南野	星野	初津	田中	鈴木	小林	影山	梅原	吉田	森島	宮下	星谷	平林	西谷	長島	遠峰	鷹谷	庄司	桜井	窪田	加藤	
麗恵	晨窓	華逤	壺博	満珠	真志	天性	華優	煌扇	美光	武浩	順道	静千	風聲	天意	天意	櫻庭	朴山	石風	溪苑	静花	香峰	

(次頁へ続く)

第80回謙慎書道会展デモンストレーション

力強く勢いのある書

期日 平成三十年三月十七日(土)
会場 東京都美術館
揮毫 田中節山先生

上野公園の桜が満開まあとわずかという三月十七日、東京都美術館において謙慎書道会展の幹部の先生方による席上揮毫が披露されました。田中節山先生は午後の二番目で、三×八尺の紙に「耕不盡」と大書きされました。「耕不盡」は禅語の言葉で「耕して耕して盡きない」という意味だそうです。謙慎書道会は創立八十五周年、今回で八十回の展覧会を迎え、これまでに多くの先生方や出品者の方々が力を注がれてきました。そして、「これからも皆様の力を沢山注いでいただき、将来に向けて進んでいきたい。」という想いを込めて、先生はこの言葉をお選びになりました。

田中先生の作品は力強く、勢いもあるため墨が飛びます。見学される方の服に墨が付かないよう、最前列の方には墨よけの紙が配られるなど、細やかな心配りをしてくださいました。いよいよ揮毫です。白い紙の上にほとばしる墨、素晴らしい筆さばきによって豪快な作品が完成しました。書象会会員の皆様の姿も多く見受けられ、先生の迫力ある運筆を食い入るように見つめていらっしゃいました。

書き終えられた後は、制作にあたって気をつけられた所などを解説してくださいました。先生ご自身が謙慎書道会展に初出品された時の事、ロサンゼルスで揮毫された時のエピソード、お使いになる墨のお話など、どれも大変興味深いものばかりでした。先生方の謙慎書道会への思いを私たちも受け継がねばと、心新たに思うデモンストレーションでした。

(伊達知節記)



作品が完成しました



作品の解説をされる節山先生

大勢の人が鑑賞されました。当日は美術館に四千人の来場者があったそうです。

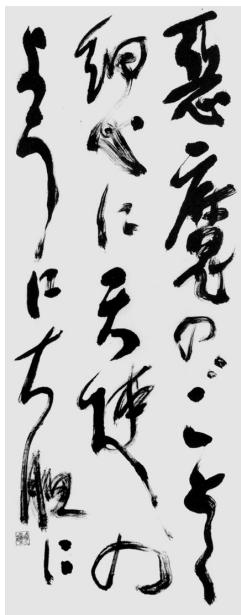
小諸出身 書作三人展

会期 平成二十九年十月七日(土)～十月九日(月)
会場 長野県小諸市立小諸高原美術館

長野県小諸西中学校時代に笛井光雲先生の熱血指導を受けられ、その後それぞれに書道に邁進された三人の先生方の書展が開かれました。虎井暁鐘先生は十三点の力作を出品されました。



沈響 (90.0×180.0cm)



黒沢 明の言葉
(55.0×135.0cm)



臨張猛龍碑
(35.0×135.0cm)

第43回埼玉書道三十人展

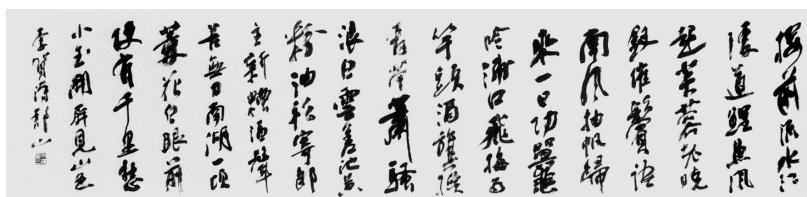
会期 三月十三日(火)～三月十八日(日)
会場 埼玉県立近代美術館一般展示室Ⅰ



市澤 静山



鑑 古 (90cm×165cm)



李賀詩 (53cm×225cm)

市澤 静山

平成三十年度 子供のためのワークショップ

「団扇（うちわ）に書いてみよう」

書象展会期中の六月十七日（日）午前に、子供のためのワークショップとして「団扇（うちわ）に書いてみよう」の体験イベントを左記のとおり開催いたします。

このワークショップでは、子供達が筆で団扇（うちわ）に好きな文字を書くことを通して、ご引率の保護者や支部長の先生方と「書を楽しく学び、書をもっと身近に感じる時間」にしていただきたいと考えております。

親子での参加や、各支部の支部長先生との参加など、多くの皆様の参加をお待ちしております。

団扇（うちわ）や書道用具は会場に準備いたします。

また六月十七日（日）は午後に支部長講習会も企画しております。さらに学生展の優秀作品の展示も行っておりますので、是非ご参加いただきますようご案内申し上げます。

◆日時 六月十七日（日）十一時～十二時
受付 十時三十分より

◆内容 子供のためのワークショップ
「団扇（うちわ）に書いてみよう」

◆講師 中村 巍山 先生
荻田 光山 先生
藤森 大節 先生
江上 玄光 先生

◆持参用具 特に必要ありません。

◆会場 国立新美術館 三階 研修室

◆定員 五十組（先着）

◆会費 無料
申込み 書象会本部までお早めにお申込ください。

☎ 0422（533）9743

平成三十年度 支部長講習会

平成三十年度の支部長講習会を左記のとおり開催いたします。

今回は、「書象誌の学生部手本の書き方（手本解説と実技講習）」を取り上げ、各支部の指導に活かせる講習内容を企画しております。

書象展会期中の国立新美術館研修室での開催ですので、お仲間お誘い合わせの上、是非ご参加いただきますようご案内申し上げます。

◆日時 六月十七日（日）十三時～十五時四十分
受付 十二時三十分より
途中十五分の休憩をはさみます。

◆内容 一 上條家ご挨拶

二 理事長挨拶
書象会理事長 市澤 静山 先生
講師 萩田 静山 先生

三 書象誌の学生部手本の書き方（解説及び実技講習）

◆持参用具 書道用具一式
新聞紙もご用意ください

◆会場 国立新美術館 三階 研修室

◆定員 五十名

◆申込み 書象会本部までお早めにお申込ください。

☎ 0422（533）9743

平成三十年度 書道講習会「信山流講習会」

平成三十年度の書道講習会を左記のとおり開催いたします。

今回は上條信山先生の書表現である「信山流」について、上條信山先生著の「書法基本帖」を活用し、信山流の基本について解説ならびに講師による実技講習を企画いたします。普段書象誌上や通信条幅研究会添削だけで勉強されている会員の皆様やこれから展覧会に向けて作品作りに取り組もうとお考えの方は、必ずお役に立ちます。

書象展会期中の国立新美術館研修室での開催ですので、お仲間お誘い合わせの上、是非ご参加いただきますようご案内申し上げます。

◆日時

六月二十日（水）十三時～十六時

受付

十二時三十分より

途中十五分の休憩をはさみます。

◆講師

内藤 望山 先生
虎井 晓鐘 先生

◆内容

上條信山先生著「書法基本帖」を用い、基本点画、執筆・腕法、信山流の書造形の基本原理、適切な文房四宝の扱いなど、解説を加えながら参加の皆様を交えた実技講習を行います。
※講義および実技の資料は会場で配布いたします。

◆持参用具

書道用具一式
新聞紙をご用意ください。

◆会場

国立新美術館 三階 研修室

◆会費

二千円

◆定員

五十名

◆申込み

書象会本部までお早めにお申込ください。

☎ 0422(53)9743

書象会研修部

書道教室紹介ページ申込みについて

書象会ホームページでは書象会の活動や上條信山先生の紹介、書象誌に関するこどや展覧会の案内に加え、書道を習いたい人向けの『書道教室紹介』のページを掲載しております。

- 1 申込方法 支部紹介掲載ご希望の先生は、ホームページ掲載登録用紙を書象会本部迄ご請求ください。
登録用紙が届き次第、支部紹介登録用紙【A】もしくは支部紹介登録用紙【B】のいずれかを選び、書象会本部までご返送ください。
申込用紙の送付と費用振込の確認完了次第、順次ホームページに掲載いたします。
- 2 掲載内容 支部紹介登録用紙【A】
教室名 指導者名 所在地 最寄り駅 連絡先 稽古日 月謝 指導者の紹介の8項目を掲載します。
また「教室のPR」と「支部長先生ホームページアドレス」を掲載します。
支部紹介登録用紙【B】
教室名 指導者名 所在地 最寄り駅 連絡先 稽古日 月謝 指導者の紹介の8項目を掲載します。
- 3 年間登録料 支部紹介登録用紙【A】→年間2,000円
支部紹介登録用紙【B】→年間1,000円

※書象会ホームページの書道教室紹介ページに関するお問い合わせ等は、書象会本部までお願ひいたします。

書象会ホームページ「書道教室紹介」はこのアドレスでご確認ください。

shoshou.com

で今すぐクリック

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

継続は力なり



照澤支部 中三
伴野奈音

私は書道を始めて今年で九年目になります。私は他の習い事などをやりながら書道を継続してきました。今回特待生になれたのは、指導してくださった三澤先生のおかげです。これからも自分の字を大切にしていきます。

支部長先生より一言 奈音さんの素晴らしいところは、気性が強いところだ。更に気性の強い字を目指して頑張れ！

目標達成



高社支部 中三
駒津大翔

僕は小学校三年生から書道を始め、特待生になることを目標にがんばってきました。休むことも多く先生に迷惑ばかりかけていましたが、分かりやすく指導して下さった先生には感謝の気持ちでいっぱいです。

支部長先生より一言 長く続いた部活動を頑張りながら見事特待生に合格しました。私も大変嬉しいです。おめでとう。

二冠達成



北府支部 中二
高野日那

今回、硬筆に統いて毛筆も特待生になることができました。指導してくださった先生、ありがとうございます。今後もさらに上を目指して、気を抜かずに頑張っていきたいと思います。

支部長先生より一言 硬筆に統き毛筆も頑張って来て、結果が出ましたね。「おめでとう」長年の努力が実を結びました!!

熱いご指導



霞墨支部 中二
高桑美月

小学校二年生頃から習字を習い始め、特待生を目標に頑張ってきました。ここまで頑張ったのは先生方の熱いご指導があったからです。硬筆でも特待生になれようこれからも努力していきたいと思います。

支部長先生より一言 ていねいな受け答えと、やさしさを持っています。書く姿もすてきです。これからもこの調子ですよ。

次の目標



湊支部 中二
折井さくら

今回、特待生合格という一つの目標を達成することが出来ました。中学に入り部活との両立は今でも大変ですが、次は二冠達成を目指して頑張っていきたいと思います。今後とも御指導よろしくお願ひ致します。

支部長先生より一言 部活が終わってから教室に来て稽古頑張りました。合格おめでとう!!次は硬筆ですね。期待しています。

毛筆につづいて



北原春

毛筆につづき、硬筆で特待生をとることができとても嬉しいです。「二冠」という目標を達成することができます。特待生をとることはできます。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

支部長先生より一言 部活動では部長を、生徒会では委員長を務める春ちゃん。書道でもけん引役をお願いしますね。

努力



照澤支部 中二
百瀬友香

私は、六歳から習字を始め、八年目で、硬筆、毛筆で特待生になり、二冠達成できました。夜の遅い時間まで熱心にご指導して下さった先生に感謝し、これからも努力していきます。本当にありがとうございます。

支部長先生より一言 与えられた二冠の目標は達成できました。次の目標は、自分で決める以外なし。さあ、再出発だ!

これからも!



霞墨支部 中二
平塚沙幸

私は小学校二年生から書道を始め、六年目でようやく憧れだった特待生になることが出来ました。ここまで教えてくださった先生や応援し続けてくれた家族に感謝です。これからも、綺麗な字を書き続けたいです。

支部長先生より一言 いつも真面目に取り組み努力する素晴らしい生徒です。書は一生の宝!!一層の研鑽を重ねて下さい。

支部長先生より一言 二冠達成おめでとう。努力する姿は、立派ですよ。笑顔もステキです。これからもこの調子ですよ。

特待生紹介

(学年は試験合格時のものです。)

目標の特待生



若竹支部 中二
茜

硬筆につづき



珠悠支部 中三
山科敦穏

感謝



皓花支部 中三
森下明音

私は幼稚園の年長の頃から九年間続けて来て最初は特待生どころか、目標もなかったのですが自分より上の人気が皆、合格していたので、特待生が目標になりました。指導してくださった先生ありがとうございます。

支部長先生より一言 三姉弟の長女茜さんは和太鼓を四年間練習して、今は空手に熱中しています。これらも頑張って下さい。

先生のおかげです



茜支部 中三
吉田風花

やった！目標達成!!姉が中学で特待生になり、私も思いっきり頑張ってきました。部活や勉強で忙しく、やる気の無い時もありました。そんな時も一生懸命ご指導して下さった先生、本当にありがとうございます。

支部長先生より一言 特待生おめでとう！頑張り屋の風花さん勉強部活動で忙しい中、着々と結果を出して素晴らしいです！

特待生合格



富士見支部 中三
池川琴音

目標達成



皓花支部 中三
前澤朋楓

特待生になつて



正桂支部 中三
高橋美稀

私は幼い頃から特待生を目標としていたので特待生になることができて嬉しいです。そして長い間、熱心に指導してくださった先生に感謝しています。これらも上達するために一生懸命稽古に励んでいこうと思います。

支部長先生より一言 特待生合格おめでとう!!地道な努力が実りましたね。この頑張りを将来に生かして下さい。期待します。

硬筆に続き目標だった中学卒業までに特待生になることができてとてもうれしく思います。先生の熱心な指導のおかげで特待生になれたので感謝の気持ちでいっぱいです。もっと字をきれいにかけるよう努力したいです。

支部長先生より一言 目標を持ってコツコツとよく頑張りました。これからもその忍耐力で物事に取り組めば成功間違いなしですね。

「特待生」この響きに私はずっと憧れを抱いてきました。そのため、今回毛筆で特待生に到達出来たことは、私の励み、力になりました。丁寧に指導して下さった先生、ありがとうございました。硬筆も頑張ります。

支部長先生より一言 おめでとう／黙々と机に向かう菜々香さんは、みんなの模範です。次は硬筆ですね。期待しています！

希望の光



有象支部 中一
川口菜々香

中三の春に毛筆の特待生になり、今回目標であった硬筆にも合格することができてとてもうれしいです。この目標が達成できたのも先生の指導のおかげです。

支部長先生より一言 真面目な性格が字の線にも表れていました。肩の力をほどよく抜いて自信を持つこれからも頑張って下さい。

二冠達成



珠悠支部 中三
水口彩美

小学二年生の頃から習字を始め、コツコツと続けてきました。そんな日々の努力が开花したようで、とても嬉しいです。ここまで私を導いてくださった先生にも感謝をしています。本当にありがとうございました。

支部長先生より一言 素直で努力家の美稀さん、人の意見を受け入れる姿勢があるのでこれから先が楽しみです。おめでとう！！

私は、小学校低学年の頃から習字を始めました。上手に書けないことがあると、先生が一つ一つ丁寧に教えて下さいました。合格に導いて下さった先生、そして習字教室に通わせてくれた親に感謝したいです。

支部長先生より一言 小学生の相手もしてくれる優しい明音ちゃん。素直な字で急成長中です。自信を持って行こうね!!

今月の優秀作品



△隸書条幅▽ 評 杉山 晓雲

大賀霞泉 余白の美しさが際立ち、
横画の余韻あり。

松尾小楓 墨色美しく瑞々しい風韻
豊かな秀作。

加藤穆舟 逆筆が正しく使われ伸び
やかな線で書けた。

嶋埜董玉 毛先の効いたよい筆でサ
ラッと書けた。

福島玲秀 逆筆が正しく使われ伸び
やかな線で書けた。

塩川冠泉 粘り強い筆運びで素朴な
造型に好感あり。

遠藤翠雅 雄大な氣宇を持ち、おお
らかに筆を運んだ。

関澤劍山 線質を多彩に展開して樂
しませる快作。

△条幅随意▽ 評 樋口 玄山

恵香 この迫力、力強さは抜群。
悠花 漢字とかタカナをうまく
調和させた。

翠法 行間の明るさが流れを美
しくした。

△通信条幅▽ 評 大澤 楠光

上島壺青 線質良く、さわやかに一
気に仕上げた。
伊里草竹 伸びやかな運筆、構造も
広し、余白美有り。
中島泰慧 各行、中心の貫通力が強
い。

率由至道冥符	率由至道冥符	率由至道冥符	率由至道冥符	率由至道冥符
前山景草 國府師範	前山景草 光扁	前山景草 平成師範 明松	前山景草 小平師範 松華	前山景草 伊奈師範 清峰
そのへとあるこの うみ朝きりへ島 くわくわくわくと ／＼そねま	そのへとあるこの うみ朝きりへ島 くわくわくわくと ／＼そねま	そのへとあるこの うみ朝きりへ島 くわくわくわくと ／＼そねま	そのへとあるこの うみ朝きりへ島 くわくわくわくと ／＼そねま	そのへとあるこの うみ朝きりへ島 くわくわくわくと ／＼そねま
秀峰 鎌磨を積み重ねて到達した確かな作。	光 扇 一点一画に心を込め氣力の充実感あり。	明 桜 どこまでも伸びやかで発展性に満ちた作。	中田皓花 小粒ながら全体構成、貫通力が冴えた。	浅見康絹 基本を忠実に踏まえた真面目な作。

前山景草 重厚かつ軽妙さを併せ持つ秀作。

静 素 素朴ながらも書への真摯な姿を伝える作。

秀峰 鎌磨を積み重ねて到達した確かな作。

光 扇 一点一画に心を込め氣力の充実感あり。

明 桜 どこまでも伸びやかで発展性に満ちた作。

中田皓花 小粒ながら全体構成、貫通力が冴えた。

浅見康絹 基本を忠実に踏まえた真面目な作。

中村秀華 濃墨で鋒先を効かせた明快な作品。

中村有希 墨色の変化に富んだ明るく爽やかな作。

三河茫苑 紙面にしつかり食い込んだ確かな作。

都竹舒山 大らかにゆったりした雰囲気がよい。

赤羽溥山 効果的な墨継ぎで、明るく仕上げた。

藤牧峰雪 潤渴の変化が効果的で、奥行きのある作。

北村照節 やや小ぶりだが、流れのある美しい佳作。

嶋上江茜 気脈の貫通した一気呵成の大胆な作。

曾根彩楓 柔らかく豊かな線質が、心を和ませて佳。

宍戸桂春 ゆったりとした書きぶりが好ましい。

中田秀麗 連綿の流れの美しさが魅力的な作。

日比野照悦 確かな線質に鍊度の高さを見た。

学生部

評 虎井 暁鐘

文化財
保護

中三
井上万結

文化財
保護

中二
中沢愛美

旅立ち
の春

中一
茂呂巧永

旅立ち
の春

中一
巧永

伸びやかで豊かな線質で力強く書けた。
中沢愛美 正確な形、正しい筆使いが素晴らしい。
伊藤真緒 落書きのある書ぶりで素直さがとても良い。
青木巧永 どっしりと迫力のある力強い作品である。
務台峻也 真面目な勉強態度が筆使いに表われている。
鈴木莉理子 落書きで形よく力強く書けました。

茂呂果恋 落書きのある書ぶりで素直さがとても良い。
伊藤真緒 落書きのある書ぶりで素直さがとても良い。
青木巧永 どっしりと迫力のある力強い作品である。
務台峻也 真面目な勉強態度が筆使いに表われている。
鈴木莉理子 落書きで形よく力強く書けました。

三温寒

小六
伊藤真緒

三温寒

六年
務台峻也

青い
地球

小五
前理子

青い
地球

五年
才木優芽

才木優芽 紙面を大きく使って伸びやかに書けました。
山本樹里 上手な筆使いで形もとてもよろしい。
内田樹里 山中えな 力いっぱいのびやかに書けて上手です。
鈴木雄太 関根杏樹 石井稜大 一生けんめい力強くてたのもしい作品。
鈴木雄太 形がとてもよろしい。たのしみです。
江連麻衣 お手本をよくみて書けました。上手です。
長野佑香 かたちよく、のびのびと書けています。
盛仁人 大きく強く書けた。堂々とした作品。
増澤希竜 いきおいよく、はっきりした線で書けた。

才木優芽 紙面を大きく使って伸びやかに書けました。
山本樹里 上手な筆使いで形もとてもよろしい。
内田樹里 山中えな 力いっぱいのびやかに書けて上手です。
鈴木雄太 関根杏樹 石井稜大 一生けんめい力強くてたのもしい作品。
鈴木雄太 形がとてもよろしい。たのしみです。
江連麻衣 お手本をよくみて書けました。上手です。
長野佑香 かたちよく、のびのびと書けています。
盛仁人 大きく強く書けた。堂々とした作品。
増澤希竜 いきおいよく、はっきりした線で書けた。

便利の風

小四
山本瑞季

便利の風

四年
樹里

水るむぬ
地球

小三
山中えな

水るむぬ
地球

五年
才木優芽

鈴木そら 洗練された線質で、文字造形も見事。
長野佑香 筆づかいよく、空間を伸びやかに使った。
盛仁人 大きく強く書けた。堂々とした作品。
増澤希竜 いきおいよく、はっきりした線で書けた。

鈴木そら 洗練された線質で、文字造形も見事。
長野佑香 筆づかいよく、空間を伸びやかに使った。
盛仁人 大きく強く書けた。堂々とした作品。
増澤希竜 いきおいよく、はっきりした線で書けた。

恩師

中二
鈴木そら

手紙

小六
長野佑香

道

二年
増澤希竜

赤

半紙隨意

どちらも
便利

小二
せきねあんじゅ

どちらも
便利

小二
えづれまい

にわ

小一
石井りょうだい

にわ

小一
しんゆうき

鈴木そら 洗練された線質で、文字造形も見事。
長野佑香 筆づかいよく、空間を伸びやかに使った。
盛仁人 大きく強く書けた。堂々とした作品。
増澤希竜 いきおいよく、はっきりした線で書けた。

鈴木そら 洗練された線質で、文字造形も見事。
長野佑香 筆づかいよく、空間を伸びやかに使った。
盛仁人 大きく強く書けた。堂々とした作品。
増澤希竜 いきおいよく、はっきりした線で書けた。

このページに掲載された人には書象会より記念の
筆をさし上げます。

評 中内 真意

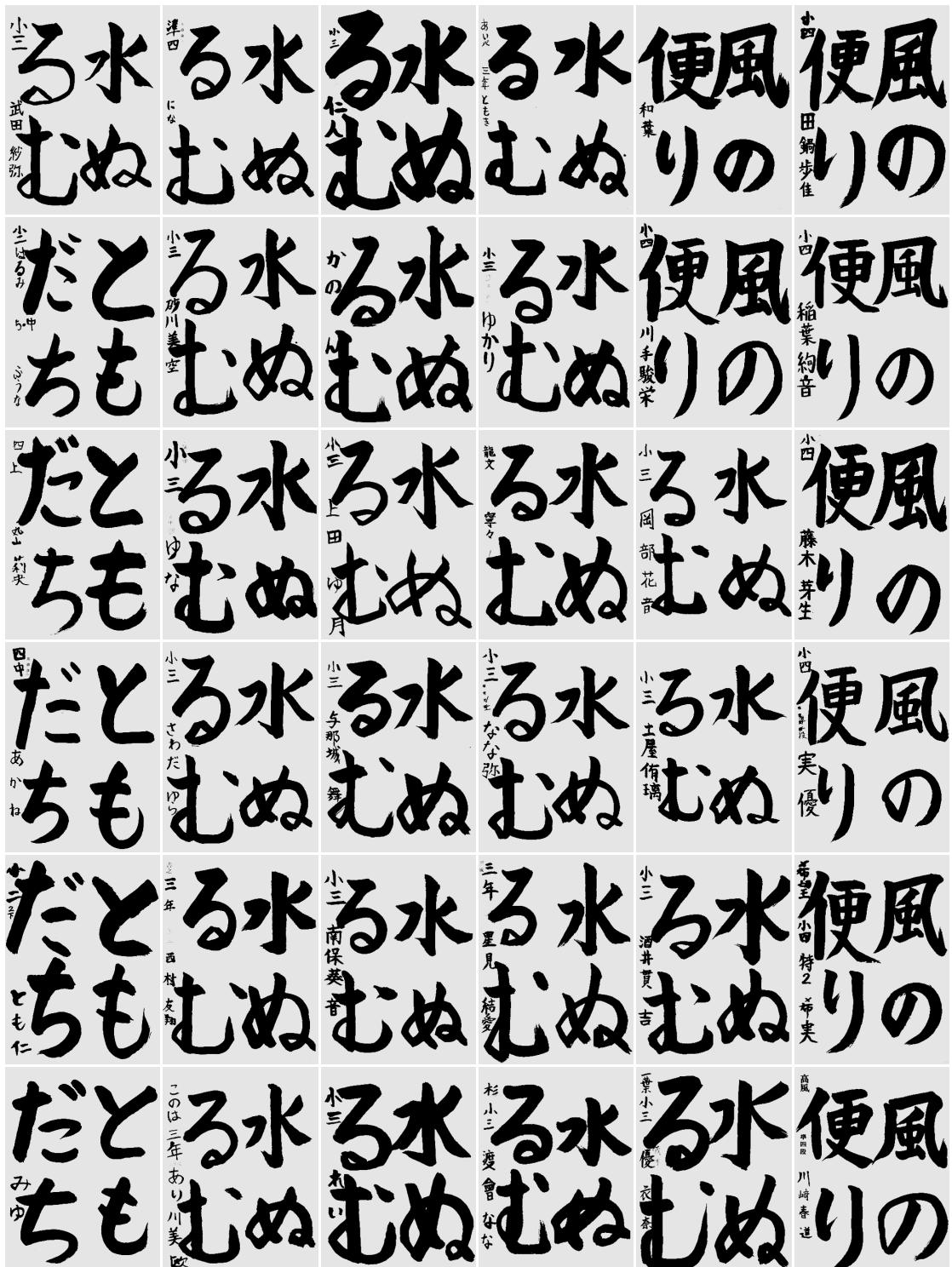
若長珠柏	級	愛玄汀八高若玄有段	〔假	竹若文若一李成高練練馬	〔假	竹若大奈有若玄董倭楷	〔楷
松壽悠心	位	心默楓潮風竹樸象	位	華松化松路光城社馬	位	平杉橫平松象華象竹心	
池鳥津小	田山林	鬼秦植仁小柄川早	湯川小池磯原高	松山熊谷利恵子	小齋當間田奈夕佳	橋井高橋澤美佐子	西村宏美
田山林	十加奈	村平林澤田川	澤島野田部	戸深海	藤田奈夕佳	橋いづみ佐子	橋いづみ佐子
彩壽恭莉	代敬代奈	頼萌賀真悅り静	洋郁彩浩敬牧子	子優聰子	実月峰里	雪瑞佳由紀美	美佐子
		山亞志子りん節	子子代代二	子			

六年 副島 聰久	四温 三寒	三寒 四温	の春 優人	旅立ち の春	文化財 保護	文化財 保護	文化財 保護
小六 心結	四温 三寒	三寒 四温	の春 森本真央	旅立ち の春	文化財 保護	文化財 保護	文化財 保護
六年 五段八木 製絲余	四温 三寒	三寒 四温	の春 松永朱莉	旅立ち の春	文化財 保護	文化財 保護	文化財 保護
小六 ここうう	四温 三寒	三寒 四温	の春 宮本俊香	旅立ち の春	文化財 保護	文化財 保護	文化財 保護
六年 杉原脩也	四温 三寒	三寒 四温	の春 白井碧	旅立ち の春	文化財 保護	文化財 保護	文化財 保護
小六 春音	四温 三寒	三寒 四温	の春 優菜	旅立ち の春	文化財 保護	文化財 保護	文化財 保護
小六 大生	四温 三寒	三寒 四温	の春 太生	旅立ち の春	文化財 保護	文化財 保護	文化財 保護
中一 草井杏美	四温 三寒	三寒 四温	の春 草井杏美	旅立ち の春	文化財 保護	文化財 保護	文化財 保護

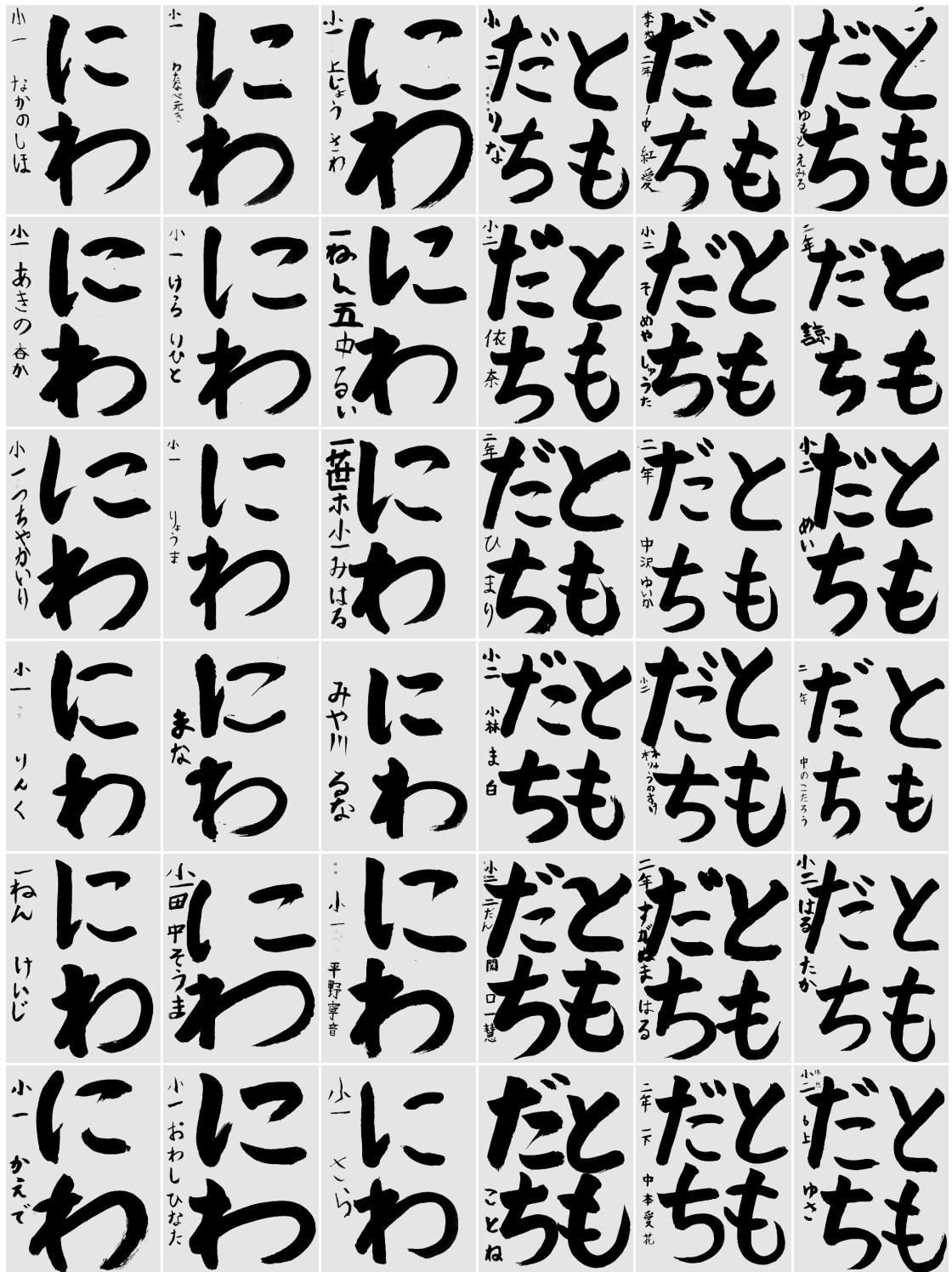
[毛筆] 中二・三
 中杉若光 小月大りん 山虹硯玄雅 光瑞練六 飯華伊竹秀雪
 野松光 愛友扇丘祥馬 高山奈雪書之
 竹内桑原池田山口白井伊藤永富渡辺稻本宮本
 池田八木梨山口山口山口永富伊藤元渡辺稻本
 副島山口山口山口山口山口山口山口山口山口
 内心緒朱莉文哉太望生碧香
 佐也奈結人優菜哉太望生碧香
 春音心聰人優菜哉太望生碧香

小四 小林 千咲音	五年 美菜 五年	地 球 い	青 地 球 い	青 地 球 い	青 地 球 い	四 温 相 太
小四 便 り の 風	ひなた 佐久間 梗介	便 り の 風	西 田 祐教	便 り の 風	高 木 真 優	三 寒 四 温
四年 小内 理紗	後月 準四	便 り の 風	小五 青 地 球 い	便 り の 風	小五 裕 翔	三 寒 四 温
小四 便 り の 風	吉江 直央	便 り の 風	青 地 球 い	便 り の 風	小五 鈴 木 品 子	三 寒 四 温
小四 便 り の 風	大阪 四さん	便 り の 風	青 地 球 い	便 り の 風	美那 小五 遠 藤 光莉	三 寒 四 温
三年 三浦 優	宮井 すず葉	便 り の 風	青 地 球 い	便 り の 風	小五 久喜 小五 相澤 沙織里	三 寒 四 温
小四 便 り の 風	反町 康明	便 り の 風	青 地 球 い	便 り の 風	小五 二二九 相澤 沙織里	三 寒 四 温
小四 便 り の 風	明日 香	便 り の 風	青 地 球 い	便 り の 風	小五 中 嶋	三 寒 四 温
小四 便 り の 風	朝熊 玲那	便 り の 風	青 地 球 い	便 り の 風	小五 津田 栄菜	青 地 球 い

小五	上尾 静翠 高社 飯山 華雪	皓花 この 長寿 美那 久喜	鈴鹿 佐竹 水野 轟 平井	竹村 柑太 結奈 侑南 瑞季
四小	竹尾 佐木 佐藤 佐野 佐井	出岡 小田 高木 真優 麗	相澤沙織 中嶋彩子 鈴木晶子 八代美波 土筆	悠愛 相澤沙織里 佐久間健介 伊藤志奏 矢口裕翔 遠藤光莉
三浦	大喜 大象 大和 大代 大峰	倭 象 霞墨 芙二 霞墨	若竹 妻科 北府 華雪 山愛	悠愛 相澤沙織里 佐久間健介 伊藤志奏 矢口裕翔 遠藤光莉
内川	大喜 大象 大和 大代 大峰	久喜 象 霞墨 芙二 霞墨	若竹 妻科 北府 華雪 山愛	悠愛 相澤沙織里 佐久間健介 伊藤志奏 矢口裕翔 遠藤光莉
内川	大喜 大象 大和 大代 大峰	久喜 象 霞墨 芙二 霞墨	若竹 妻科 北府 華雪 山愛	悠愛 相澤沙織里 佐久間健介 伊藤志奏 矢口裕翔 遠藤光莉



小二
 龍綾 華二 石峯 晴美
 岡 富 寺 泽 丸 山 田 中 ふうな
 心 智 仁 音 朱 利 央
 若 宮 高 華 希 望 中 野 須 坂
 柏 心 玄 樸 高 風 玄 樸
 一葉 龍 文 平 雪 华 雪 高 風
 杉 倭 飯 田 爱 有 虹 竹 華 二 秀 雪
 鬼 十 友 希 関 友 佳 理 高 日 な な 弥
 渡 會 星 見 今 尾 寧 々 な な 弥
 茂 木 優 衣 茜 貴 吉 仁 人 仁 人
 川 崎 新 井 能 村 稲 木 稲 葉
 手 井 川 崎 新 井 能 村 稲 木 稲 葉
 駿 茜 和 葉 春 道 美 実 優 生 紅 音
 步 佳 紅 音
 佳 紅 音



持風の作品など読むにうれしさに
つき残り合ひをして行くが
一日も早い——と喜びました。まことに
多胡碑を代表とする群馬県の
三つの石碑が世界記憶遺産に
登録されました。(後文部省中一年)
星井明純

相見て子等の夕闇に行くや乙女の
の森の影武蔵野原の菫の咲き
板倉達夫の詞 咲愁歌三 松本泰輔

硬筆

新聞やテレビなどで知る大
氣予報は以前に比べ的中
率が向上した。

多胡碑を代表とする群馬県の
三つの石碑が世界記憶遺産に
登録されました。 雅中一進二段
多胡碑を代表とする群馬県の
三つの石碑が世界記憶遺産に
登録されました。 雅中一進二段
山口花音
登録されました。 雅中一進二段
多胡碑を世界記憶遺産に
登録されました。 雅中一進二段
三つの石碑が世界記憶遺産に
登録されました。 雅中一進二段
多胡碑を世界記憶遺産に
登録されました。 雅中一進二段

成美	柏湊	美玄北桜笠若美み練八練 千美光玄右中硯サ大北柏晏皓サひ須さ大秀光	杉	大笠	龍	飯名一蒲美秀柏曉練宝一美皓
城二	芳	苑嶽府森原宮菜月馬潮馬特曲苑丘耀文野	阪原	文	山東絵田五雪心月馬春路墨花	ン
○○○○1						
豊向羽松竹樺吉松川小碧手増鎌河平小松級	庄井八下津山三渡	今豊上平清平伊田農山宮大山清落宗大唐小中清湯山清姪宗神廣平横周牛堀一小脇石	田井田井内口岡下口島	塚原田野有林山	田上橋枝村田谷辺井田條林水山藤鍋泉田下木谷合千住澤倉村水本崎水川像澤部松山吳島川糸森口橋	真美龍才良佳智智啓夢空麻東詩紗加陽聰
早佳英峯星さ理彩恵芽和か由慶健隆茉里莉詩直竜良栄彩日尚萌信鈴杏満愛キ未優天里淳春裕ひ朱梢愛						
葉大花書暁月備珠成	笠亥大一ひ李亥	秀一	一杉	光杉富	富若富中名笠	李晴碩大一碩一高
月手雲之月	後悠城	2原心阪路ま光黙	雪絵	葉絵月	丘貴士松貴央東原	光美雲田路雲絵社1
○○○○2						野谷二芳墨原雲勢雪
路淀東橋集曲雪						
相藤中閑福神近津高級	森成廣鉛中吉梅里常加氏根真佐友高目波鈴三東羽ア田林本小石大中森闘闇深級	川畠田高谷真小牛秀浦稻上佐岸松木石長鮎	澤田田戸垣崎藤戸	舞田中木村田津川田藤家岸壁々野鶴黑多木原岡山部丸能多柳澤工島慶ひ根海上	実中杉脇篠林山	見久藤本村原川澤川
ま美菜輝昌沙ア恭牧	花陽千香育佑乃浩悲杏リ涼佳木和裕久野禮紀香知乃美活希水原咲子よ瑠美	螢佑真優立良由真弥恵千保暎早勇颯静真咲				
倚華倚大座暁	光と北中李大光玄祐高一	錦大静書凜柏美山大帶名茅富横	中北桜	柏李	神竹晴書李	長倭霞珠葉霞八笠秀竹美柏山長
雲雪雲淀井吉月	丘	府央光手丘耀心龍風路4黄阪	之心芳二愛淀中東野王二	野府森	心光龍華美之光	3寿墨紅月墨潮原雪華二芳愛野
○○○○3						
宇中伏岩池大唐須水今松坂榎藤須藤藤押清磯級	柳岩佐閑鈴平植大石美松飯池松竹小徳星鑑吉北園松寺野佐原級	今佐瀬福塚会萩若長穴中下宮吉野	野田澤田木本田野惠嶋本田田本見水部	澤藤戸木井草梶川恵本鳩川崎内林竹野原原真尾門	藤敬村葉藤川士田田原林谷井澤間島原	育麻武和恵し曉千靖美海幹恵佳歩洋貴弘壯
真和里結紗尚薰茂智子水洋琴薰舜彩凜奈明歩典知朋祐愛優二	久美巴鮎幸愛汐幸知川ゆ亥由節永					
文春長晏大柏若倭亥	杉瀬大高八杉文大化手6祥	吉華玄虹若光み月石杉	東大笠和榉有暁亥	大玄長葉華游乙文若	華美玄書備晴玄華書杉玄化手6祥	雪二耀集後美默雪集
化翠墨淀松芳心	戸淀阪風潮	心葉墨苞松丘な峯	光象原森穗月心	阪心壽月雪墨訓化松	5雪二耀集後美默雪集	耀
○○○○4						
三谷中米岩寺藤松石原野藤正木宮田西寺伊級	上北	中吉村岩中梅松柿野大奥阿鈴白田柳宮山冲田山熊中石嵩堀小池級	今福林岸柳田平栗河石桜	藤口條倉澤島原澤毛	崎沢次下川村野脇藤野澤祥井川松立村崎本崎田場山部木崎中澤部本田中澤本戸戸野田井本百千	百千武辺山原野川井久秀正節由清栄実ひ恵美和奈研真夏月浩友
沙博子秀淳美明美鶴哲納留三照る麻成き清夢暁那信治一千正恵奈彩直麻代秋和恵加亜士友法	7					
照茜	玄水紅大長玄北華大国奈	埼宝東サコ名八船大産杉	大北有	埼奈若東北四乙大杉竹	文若光石大平富崎游	杉青大杉宝和一若飯若澤
段心代竹手寿心府雪阪府華	玉仙根ソの東戸橋井吉	手府穂	玉華宮根府谷訓井	8化竹丘峯底成土墨	雲手仙	路松田松
級						7
照霧位江白清玉羽小若鈴福小田高鴻平松保丸小安大原濱山宮闕が横北森狩胡林青小渡藤末柳湯級	尾雅須中大羽今柳田成福下三渡下奥安佐白川	不坂島水井石池月木田原原沢木村澤坂山野田城田本島千月田平朱野内万柳林辺本原下澤崎	田村熊角井楽村瀬元原輪會島田樂藤子島好沙明	聴里洋ま幸菜千友訓美美知大桃仁貴麻聰福凜康純彩智恵佳龍音円正寿音希厚み昂洋	光恵明直信す郁由由明仁國桂然弥生岡真佑郁	好沙明
好沙明	北松宮八松富游静	サ和中晩中印玄若倭伊伊飯	大花水京大董嵐	珠磯	大産	華葉八杉伊玄有
戸川戸貴	山	勢華野雲嶽松那田	象代都淀	山紅辺	阪吉雪	月戸奈心象五仮
宮汀房東	東	瀬横北	戸二府			題
穴穴青澤井鈴杉谷青周今石星友伊大川八み文士弓楨黒伊希宇土藤佳み武藤増井宮古田宮大熊萌三華村渡光茂林井早段	名	川松林達千波磯宮佑	田田幸一	多村澤希千羌響舟坂し祥瑛由文秀美早江と淳田代子江鷹千靖菜孝泉美雲花み秀い久新か葉滿珠灘珠禾華彩愛陽扁扇お美静	真湊子	静野ち帆子
高帶若磯麗富富磯遊サ中	横産宵	杉須青横新横美玄華長靜玄霧玄	華聖春錦	柏	笠	元源様
風中松辺墨二士辺墨ン野	二吉月	坂雲浜城那耀雪野	嶽訪模	準雪	玖黃心	原樸創森
宮汀房東	東	瀬横北	戸二府			題
五						
蒼発衆開折鉢坂能赤松藤高田遠長吉鉢宮本青清松織泉清華油林詠丸川段	小櫻節須翰室山百太笠宮林暁翠丸篠南幸石和森中権名鉢小小佑細吉鉢指	田弘笠木齊勢井田原橋島峰山田木入多木水下戸和水	科玲	山田林江賀口瀬田井本佳川	山田井田農野田	木田林希田富木田風朗八子琴盛和莫蕙貢鏡辰盛櫻俊煌蘭杜千順川永晨美滿香木奈草皇か
華蘭真錦舟綾文雅荷朱香蓮奈幸祥泰花江た麻英真流志裕明嘉子雅慶代恵						
葉勝柏瑞	高サ有	美藏蒲八富汀八石志虹京奈正神皓名瀛笠若梓	倭国中東美光さ	横書杉炒大李	青	玄華長松玄柏宝汀若
月木心祥	准風ン象	五田戸貴松戸峯モ友都華桂林花東戸原竹森	府野根苑丘わ	二集	高阪光	雲燿雪野聲燿心春松竹四地戸樸
四						
柴鈴山小名段	佐節愛中齋藤染工小明谷菅鶴淹渡阿小倉岡敦礎古相百小小細佐齋小加丸高宮熊高根佐田宇武馬藤橋星華相武青合森順柄段牛石川崎木崎孝	田原飼谷藤榮地原飼瀬辺林科田	村田原瀬田磯真野々藤張藤山柳澤谷橋津藤中田田場林立野	木田木葉尚澤丸黒田修敏晶佳琳	美牟麗船百浩和清美春節和響由操智豊み子ち和由白昭典由恒木由真政模帆光真浩彰ヒ乾川弓い孝親華詠美清詔美子悦	和民美
玄若観若玄	大	玄沙	華葉柏光八	桜高	静水	八晏神東八
横	松	雪月心丘潮の森風三山代	南墨林苑陽戸	翠泉黄	原松春会勢華	長書錦
五						
穴清木谷坪吉伸原坂富染森華後綵友鈴橋湯小段	黒柴南落宇酒北林江荒小鎌菊綴白加川小松桂理大牧赤齊古佐鈴畠木杉長岸甘天佐都林越藤平寺赤原水村遥内村	誠本崎谷清藤野木爪田林	田真合留井村戸早戸井林上池	日藤岸霜井	島野澤藤矢藤木山村村南波中	々竹珠川山田島澤義勝早華廣珠珠子ゆ則紀石輝菜舟和彩里坂真祥礼知早賀和す苗惠優夢小錦井紅昌西優智玉紗博峯蕙江瑞和亞和玉勇恵性木恵恰浴夏真ゆみ
大優	有書和須平新	瀬高三有文綾柏	暁美	こ船富八和	華長玄こ汀八	野港
阪生二象集	坂成城	戸風池象化華芳	月二	の橋貴戸	雪野成の楓潮	準辺南貴翠平
☆	三	象二友	象二友	象二友	象二友	象二友
濱宇段	近小田青檜川吉安谷溪白節小黒平ア刈清松神奥小松大門中豊高植仁段	榎圓石濱大岸長游唐久成倉林渋鳥柏中小統歌一平鹿佐柴煌井飯田林田	藤山島木谷鍋川藤川	測岩賓部出田本谷崎笠本川脇原川村平	本	橋名池野竹津保澤谷照谷部崎川林ノ山島久寿上塚中由珠川
節田静薰佑麻真ち裕風麗舟千完紫遙加晶綾美と原孝め里智由智萌賀淳子安久澄雅真由田衛良子濤喜と美倉舟節瀬慶未間雅典亮恵						
杉星愛	杉秀玄新	笠	小サ高四静柏曉	柏飯	美大	華長靜靜大水八秀土有小玄高信
心初	雪默城原	光ソ谷翠芳月	芳田	二阪	雪野木	大
☆	雪默城原	象代潮雪筆平黙大	菜	原森化光	松象馬月	泉路谷府花
☆☆	雪默城原	象代潮雪筆平黙大	菜	原森化光	松象馬月	泉路谷府花
鱸魚段	圓鈴月重石山木井清高伊周山荻完尾柏松華栗手蒲田武齋水小田亞永山頬段	北山森大渡歌奥生中加根山美吉藤坂及一竹保坂	中翠中桃村十	藤木松井村村上子水杉勢篠原口	野原田	原塚原部居藤野林川利井中
娟光加	和納性千和優智和イ彩優崎良婷有千頃由瑞司由恵美共典美彩陽美沙婧笑山	藤田美橋辺原野島藤本本	田平口川糸下谷腰彩谷	嶋	照高希明眞円冬智真和伊月真朱宥翠ひ惠緝儀	美白ル
東長皓柏	小飯	暁四皓松右八富美若中光千小杉秀横	笠玄大有華桜富大柏皓松杉華	高小星松四一大中玄書	優浅新	笠華大勝産柏若玄東根寿花心特光田
○○○○2	月	谷花戸戸土二松野丘曲平	雪浜	原模象家雪森土芳月	模花	横書準風平戸谷路象野嶽集
☆☆☆	☆	☆☆☆☆☆初	生間城	原雪阪木吉芳	竹樸根	☆☆☆
高寿渡小段	浅勝宮後主清高菊田鈴谷古湯高安羽吉熊鈴手宮一石小森碧高塚唐和野高中段	當上金渡鈴宇金望石大根原神河市斎篠後大心貞久谷	瀬林野	部藤水橋名木脇賀本構藤山村澤木塚原	原林田	橋越田木田橋烟本間久子
華香ゆ莉	昇江暁瑞朋由美光部禮立仁瑞裕由淳眞ひ久希桜枝理晴由空真菜龍曉文三眞麻	木田井月川嶋本露林西川木	藤村由川保	裕裕朱万真才敬	裕裕朱万真才敬	裕裕朱万真才敬
宝笠大秀柏	若希秀李平中長大	ヒ皓高美大照小霞	ヒ柏曉中	大葉一柏大書珠	杉さ秀聖	ヒ中碩紅皓
春原象雪芳	1宮望雪光成野寿	花ソ花墨淀澤平墨	芳月勢	阪月路芳阪集悠特	わ雪	野雲竹花
○○○○2						
堀庭田今松寿	級增築稲小佐山山寿山林脇深小岸小藤桜上竹稻浦大今岩三花竹廣河津級	清村豊有資美土佐下二酒石宮畔道本稲加浅越落下小福村桜雲川田中國井	原山見柳藤田	本愛口海森本松井井條田垣田住井崎木	内中野田	野山泉田河藤屋垣ツ井并下上喜間葉藤野谷合枝暮士山井裕朱万真才敬
東祥千水信さ星幸友梢美朱早愛和晨和愛昌恵彩和太良良千士恭						

□は写真版(昇級しない) ○は昇級(1階級昇級する) ☆は秀作(同段位で二回ると昇段する。ただし師範部は除く。)

<p>大玄倚長杉柏備富珠平山土秀玄さ柏高美竹 秀上大」笠秀北珠「美一四葉秀曉八大柏須笠一倚華若 漱筆書神秀北李た花一一若倭覗こ信静葉唯 阪燐雲野 芳後土悠成愛筆雪樺わ心風五華3雪手原 雪府紅 二路谷月雪月潮手心坂原葉雲雪松 2戸原集龍雪府光け雲葉路松 扇の大 月心 ○○○○○○○○○○</p>	
<p>後村宇宮長平近岩半夕下絵松南阿横清廣柿級佐長藤牛小原向一穴向佐藤相伊林斎伊北荻唐中伏栗池級林手岸松柳竹原鈴寺根森東千宮多中佐吉今 藤田野島戸井藤野田間 本紗部山兼部沼々谷田山林田井 井井藤井澤庭領藤藤原原澤里田原田 梨塚千尾澤村敬木澤岸慶岡葉鷗賀澤藤原浪 田洋育節智尚ア樂菜佳由美奈英里実優有木勇美真由彩嘉実ゆ美啖理ま朱子友典日吾武亞彩 香麻秋明円拓二楓弘涼子香美文谷博里永裕 笠神「秀房平光神蒲珠帶み美中若大葉小李一湊八桜 和笠秀須「光珠四晏「大若サ高玄笠若秀光帶晏倭 山柏笠秀李玄光「「晴珠硯大備美有 原龍 雪風成丘奈田紅中月二央葉手月光葉 潮森5 原雪坂 丘悠谷墨 淀松ノ風燐原竹雪丘中墨 4愛心原雪光嶽丘 美悠 井後二穗 ○○○○○○○○○○</p>	
<p>森押横平榎遠水内神瀬體河福阿磯藤中西園吉樋船錕級奧林里田須大八奥千平岩石村石岩林鈴福肥岩美米長級丸荻田榦川須田野石丸三池柳植柳 舞見倉松本山野澤川塚野本部崎田後川真浦口村 村田能川鍋木木橋手葉林澤川松橋井木百木田立惠倉渕 谷山原沼本口田辺 澤口谷田武草澤 花広源天弘上靖由麻鯛勝紗麻乃あ佳正原知碧佳夏明 生活浩隆步詩英璃和かと智美愛保代成朱來明子節孔 紀覺幸幹恵啓千恵愛卓莉理恵和薰夢 游大奈一奈「秀大埼石埼若東観大春華唯杉秀李土竹乙足石八華 大瑞和千「秀北李美長珠晏「大」若視中大錦華富紅乙若大和様若秀北土 サ「 墨阪華葉華 雪淀玉峯松玉光扇手玖雪心 雪光筆畫羽峯朝潮7 手様 曲 雪府光菜翠紅墨 淀 松扇中央黄雪士竹訓松阪 森竹雪府筆6ン 新新</p>	
<p>田岩胡氏田宮何大高中鴻佐奥君閔谷今聰目竹本川染藤貞梅会石級三小白青外中星吉藤中朝中岩正藤川今坂宮柳北玉堀堀東冲今田平常若姚級渡小 村内家原下思熊沢村村藤山島千口井 黒澤多上谷本 島戸輪坂崎木山西野田本條 井澤體原島木本島澤澤木明口岡田忠中井田月 迂浦 由真正里美莉穎知信大直真る恵秀直子久茉希紗教厚哲沙惠 未草月子澄 訓仁ま康美侑圓照清美歩治み海夢千榮久み音龍麻綾早美水芽音裕貞貴研 若源大瀬「大城華」「サ」瀬中六書き 宮 巍文倭汀須 大城大火国 「靖東柏倭柏大秀」、「北東文大」靖大雅千杉秀「北東千サ大 松創阪戸 阪彩雪 ソ 戸勢会わ集五硬 地課 山化 松坂段阪 手井府 玉芳光 心阪雪 府根化井 玉象 曲 雪 府根曲シ阪8 小岡大日田熊日大星伊友波石川平丸熊梶段筆 題川連金茜秀森絹富位福玉原小柳狩寺松吉田相松小若松三水森北阿西庄野川豊森青長保木級 田江村比中野置川野藤里多黒原井山田原 田い蔵 知澤明 不田元井田原樂野揚島澤原朱平部崎田崎口田詩柳澤坂下 由邑玻野満珠倫め早と江野民田ふ桃勇節 真 未草月子澄 訓仁ま康美侑圓照清美歩治み海夢千榮久み音龍麻綾早美水芽音裕貞貴研 船秀勝華「玄石倭 船倭巍有文雅杉」若若有玄船玄御 長 游相巍秀六雅「サ笠玄長華若「瀬李京南志富水「美紅龍相若倭」北秀 笠葉 橋雪木雪 構峯 山象化 竹宮象默橋心牧四翠 墓模山 雪会 ン原心野雪松準 戸光都 摩貴代 墓雪竹模松 府雪 原月 五</p>	
<p>中田山土濱川菅山段飯冲須白麗清明汀上竹由西大真貞段小森赤松峯小有松安石松百井靜華衆段水坂森福藍降吉照紅中 大弓楨仙小保大児琴 村川崎屋田田原岸 田真田 永 野前喜洞橋島 林島井本村儀田井藤橋田瀬上 田 野野井脇 岡 池 村彩音削田 野坂津玉 友美晶蕙緑美節亞 裕由美麗爽雅光心裕子齊岳亥月 夢美惠正伊典菊智雅美真雅千詠八 美勝京和栄真川雪哲子彩美 レ千靖翠内忍泰三 溪湊中サ和御大「華聖若秀大飯東名船游若秀西蔵練襟「玄さ華練光 竹瑞光瀬横新四 名船長倭秀書玄華勝霧東玄若須練飯 光信桜野名宵皓 月勢ソ牧 阪戸 雪竹二雪阪田陽東橋墨雪 馬森 構わ雪月 準華祥丘戸浜城谷 東橋翠 雪之心雪帆根黙松坂馬田三丘大森辺東月花 ☆</p>	
<p>酒愛桂平松貞吉林華齊宮相段甘田三林熊菊青谷井坂鈴奥麗龍丸染兒友段栗名鈴森和高戸諭覗荒森篠翠碧安後舒秋高加富吉吉段加佐宮根敷佐岡 井 山本 村珠 大木原 中和早切田木邊上口木原 田山谷玉野 原 木村田畠杉田訪谷并知田 田藤 橋澤田川 藤久沢木 田田 摩皓玉慶孝泉珠怜鶴祐萌由 恵影玉苗夢佳由華典有こそ か正紀利和 幸洋裕ち英彩優碧彩理優子泰幸舟か豊山河み昌澄真成 政間暉淳子蒼み 御李嵐練「皓長 光書希瀬美「横大」華長若茅練千「大國紀」「船倭」「李秀小石」名有源聖小聖雅御城「華勝小葉蒼花一正磯游若玄瀬 牧光山馬 花翠 丘集望宇那 浜阪 雪野竹野馬初曲 阪辺府 橋 光雪平峯 東象創 光 牧彩 雪木平準月穹社象路桂辺墨松樸戸 ☆二</p>	
<p>豊小増酒二渡大大大畠築イヌ鉛漬華栗杏炳曉熊段小伸算豆井前淹高神伊長飯幸熊山唐大末永香南中西雅鐘清門秋田木段鉛井清本一花酒神加穴林 柳井井ツ瀬池島木山山藤ミ戸木本原 濤 谷 山 上山田橋谷月濱塚 濤中津津田井 濤島村 田脇谷部 木水上間糸 井山藤原梨 苑水跡と寺ゆ久紗詩と伴道ス久晨珠溪由静悦道利 直珠玉葉景紗美萌晴孔亮江ひ笑由伸棕靖文ア真奈虹洞真里賢恭華 敏眞彩健ひ峰尚禮和義香 サ珠右松四神さ李富華龍皓龍小上秀 大游花小山大松「船山静小」名茅美照嵐八曉「大」練有サ御瀬新美秀神「華長葉練愛名練小珠 富 ン悠文戸谷林わ光士雪文花光尾雪 特象墨雲光愛阪戸 橋愛翠川 東野二澤山潮月 象 馬象ノ牧戸城菜雪奈 雪野月馬心東馬平悠準 ☆初</p>	
<p>石奥津高藤酒阿原玉森清脇中西長松段田長寺木長松金平本大小流蛭松峰稲小増齊后宇塚白牛松小丸真安渡森宮内鈴中安美知橋鬼渡平藤半段小 橋手村橋井戸散木田水口村川谷本 中竹澤村井田子野間橋機川 田村葉松井藤田越澤島山林子 藤辺美下野木畑部 崎十邊有井田 柴愛璃美理和紀二美由信梢明原勇奈 万雅弘智裕司千葉彩峻茂輝溪愛勇弦芽久愛久実瑞川菜麻春曉意晴江ち晴希莉由里麻ひ香真帆加琳加和菜 清 和 富若曉飯名千「竹李」「秀北大笠サ優葉藏山若山北大華 四倭笠サ若華中和秀富紅一優湊高光皓、名千秀華唯富美大唯光倭珠さ瀬 2士松月田東曲 華光 雪府手原ソ生月 爱松愛府阪雪1谷 戸原ソ宮雪阪野雪 美士竹葉生 社心丘花特東曲雪心貴ニ阪心丘 悠わ戸 ○</p>	
<p>今級高東唐小松青柿伊園常今原小藤久渡宇三上下池白豐廣栗段竹千吉小節增森落翠平田田岩下伊大晨深越須和級田安横小今奥柏岩古高齊丸村加 惠 橋岡木山本木沼藤真田國田島田 迂田木條間田井中原 下葉川口 原清台 松島辺野垣藤嶋 海川田 丸藤倉暮浪野崎本橋山口山藤 美 真香曉桜水直有優知彗真彩夢美惠彩川太梅由彩衣芽千亞 惠美真雅舟東石良白天靜惠楽美直瞳秀芙蓉千文 美由源千裕と瑞和惠裕愛リ直富 大天琦秀大秀 濱晴曉中若光富大光秀 珠有瀬和玄覗小若有東富山神飯国葉美中書玄石 東靜國「「飯有玄若晴和珠「秀中秀書漢北李秀照 阪手二玉雪阪5戸美創月央松丘士手丘雪4 紅象戸 默 平松穂光貴愛林山府月墨野ヒ樺3光翠府 山象樺松美 悠 雪勢雪集 府光雪澤 ○</p>	
<p>田宮穴森稻木里級松野宮稻坂村須三伊岩佐級上石藤奥梅三鹿東柳ふ波志倉湯景敏小中関嶺中級禮内芝清山山近一古石大津肥竹浦田石藤森本鈴照 中島井朱見下川 原 本垣本松田原藤立々 野田沢田津谷島崎澤み多村科本 森鷹戸村 田景水崎藤 賀澤森田津澤田沼川森詩多木 治智ゆ音千研浩 异昇香昌幹美歩友明木 珠結和主理未胡夢え野真豊鈴仙子朱結花直 予彩泉真葉葉節枝仁卓淳恭來茱惠幹靜皓音希納好 書白大巍柏玄大蔵集岡阪山心樸象条隨秀京美「東」、「樺檜国四大折サ秀春大 城「大和」秀若東船游静花秀美 富長華照「「崎霞美若李崎若秀 樺美 雪都ニ光 玉森府谷手原ソ雪攻8玉 手 雪松光橋墨 雪雲菜7 貴野雪澤 玉墨ニ松光玉松雪6森ニ ○</p>	
<p>谿美大震採翠悠意村碑美大震采翠悠意 川み刈奥大越狩山英小美玉岩柏保何谷福高藤閨白外中佐三大游佐寺伊山級濱見石照高柳久小福藤櫻鴻川若級田谷 口な込山場阪野原 野井 叉坂思口 田田千崎山西藤宅城 藤澤山庭 一名戸 沢案保林本原本村島林中脇 眸波菖蒲舟浹花香 水み加る照部円幸香遠美朋ま真園貴穎秀訓 彩佳恵き裕彩真健凜真里三朱霽 千静恵と知侑由美麻恵大郁知 清立</p>	
<p>7 準 '' 5 2 7 7 6 '' 準'' 準七 級級三△中下下上中 二 三段△愛毛心△☆硬 佐西小筆原原鬼荒北迫小佐鎌山岩筆支藤田野V雪小十卷澤み野藤田田田V部 英光真 乃晴友い咲な真寧沙桜紗 ○○☆硬 北大長筆支青筆栗平小坂栗坂青筆部 村角谷V部 田田林田口田田木V 大准特 準 5 初六二 '' 四六七準 段八待△上七△上段段 段段八△彌毛支 ☆毛尾△硬 北大長筆支青筆栗平小坂栗坂青筆部 村角谷V部 田田林田口田田木V 匠地舞 啼 大千健雅哲果愛暉 ○○</p>	
<p>小・中学校の部</p>	

昇段級試験

要項

師範昇格試験

出品資格

準師範試験 一般部で準五段・五段の者

会期 五月十八日(金)～二十日(日)
会場 松本市美術館2階市民ギャラリー
※上條信山先生作品鑑賞会
五月二十日(日)午後3時～4時

左記の要項にもとづき昇段級試験並びに師範昇格試験、特待生試験を行います。

ふるって力作を御出品ください。

昇段級試験

出品規定

出品の手続き

1 支部及び個人宛に要項、出品目録、師範・準師範・特待生試験受験名簿、申請書を送ります。

2 師範・準師範・特待生試験受験者は名簿に必要事項を記入し、バーコード出品券を必ず貼付の上、共に提出すること。

3 返信封筒は不要となりました。

4 段級位の認定証は一部三〇〇円です。認定証の要のみ申請書に記入し、「要」の場合は出品料の欄に加算すること。

(個人で認定証を申込む時は返信切手一四〇円を同封し、返信用封筒は不要)

5 師範の認定証は八月号発表後に申し込む。

6 為替・振込にての送金は御遠慮下さい。

出品料が千円以下の場合は切手でも結構です。

締切日 五月十八日(金)(厳守願います)

発表

出品者あて成績通知をもって発表にかえさせていただきます。

師範試験及び特待生試験の合格者は八月号誌上に発表の予定。

出先
〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三一六 上條方

書象会 竹内藍山 あて

● 小学生 生一点につき 五〇〇円
中学生 一点につき 五〇〇円

出品料

● 小中学生で現在準八段の者
● 中学生は昇段級試験と同じ
出品規定
(級位用)

出品資格

特待生試験

要項

師範昇格試験

出品規定

師範試験 準師範の者

昇段級試験の一般部規定に同じ

出品規定

出品料

☆準師範試験 四〇〇〇円

☆師範試験 五〇〇〇円

会期 五月十八日(金)～二十日(日)
会場 松本市美術館2階市民ギャラリー
※上條信山先生作品鑑賞会
五月二十日(日)午後3時～4時
(お詫び) 四月号假名規定(級位)の手本揮毫者は、上條信山先生でした。お詫びし訂正いたします。
四月号9頁手本の見出し「隸書条幅規定」は「漢字条幅規定」の誤りでした。

書象会夏季合宿鍊成会

平成30年度

会場 群馬県

会期 八月五日(日)～六日(月)(一泊二日)

定員 二〇〇名

その他

ホテル内に広い鍊成場を提供していただきました。
(六月より受付開始)
詳細は五月中旬にお知らせします。

研修部

発行人	(有)書象
代 表	上 條 節 夫 象
東京都武蔵野市吉祥寺北町四一三一六	
郵便番号 180-0001	電話〇四三(五三)九七四三
振替口座 ○○一九〇一七一二五六九一	振替名義 (有)書象
印刷所 株式会社リンクス	象